保護者の出番はいつ？

高校3年間のスケジュールと、わが子とのかかわり方

保護者の皆さんが高校生だった頃とは、世の中も、学校での学び方も、進路の選び方も大きく変わっています。でも変わらないのは、高校時代で子どもたちはぐんと成長すること。これからの3年間に子どもたちが何を経験し、保護者はどうかかわるべきかを見ていきましょう。

構成・文／長島佳子　イラスト／サタケシュンスケ

様変わりしている

進学率がこんなに違う！

保護者の時代

1986年の大学進学率は23.6%で、大学進学者は18歳人口の4人にひとり以下。現役大学進学率は65.6%。

今は？

18歳人口の半数以上が大学に進学し、現役入学も増加

2016年の大学進学率は**52.0%**。30年前の2倍以上の比率で、**半数以上**が**大学に進学**。また、2013年の現役大学進学率は**85.1%**と浪人する生徒が減っている。

（「学校基本調査」平成28年・年次統計、平成25年・昭和61年の高校卒業年別入学者数より計算）

入試がこんなに違う！

保護者の時代

一般入試での進学が大半で、1984年の推薦入学率は22.6%。国公立の入試は共通一次試験で、5教科7科目（後半は5教科5科目）の全科目受験。

（文部省「大学入学者選抜実態調査」より）

今は？

半数近い子どもたちが一般入試以外で進学

2015年に推薦入試で進学した生徒は**34.7%**、AO入試で進学した生徒は**8.8%**、合計**43.5%**が一般入試を受ける前に進学先を決めている。1990年に始まったセンター試験は私立大学の入試にも利用され、科目は志望大学によって異なっている。

（文部科学省大学入試室「平成27年:国公私立大学入学者選抜実施状況」より）

社会で求められる力が昔とは大きく異なっている

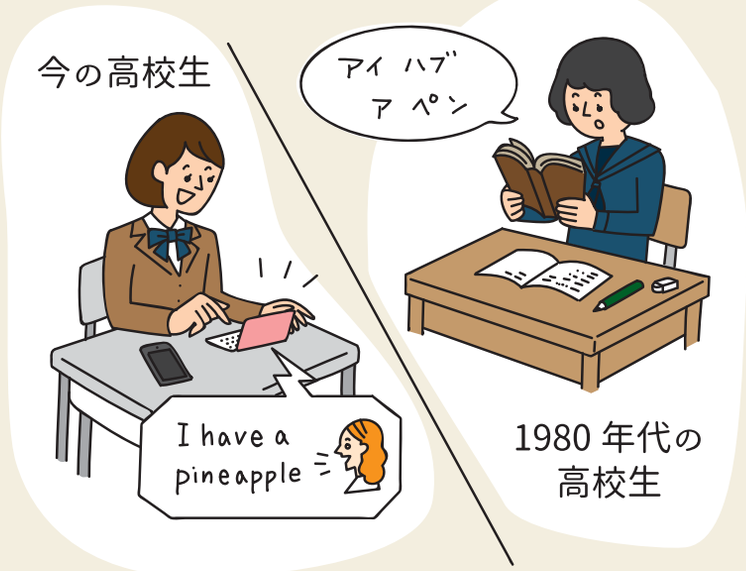
今までの15年間の子育ての間にも、「自分たちの時代とはずいぶん違う」と感じたことがあったと思いますが、高校に入るとさらにその場面が増えそうです。

要因のひとつが日本の少子化。少子化でも大学数は増えており、1985年に460校だった4年制大学は、2015年には779校と1.7倍に。その結果、大学への進学率が保護者の時代よりも30ポイント近く高くなっています。

学校教育が変わったさらに大きな要因に、技術革新による産業構造の変化があります。機械に取って代わられてなくなった職種がある一方で、新しい職業や業種が増

監修

神奈川県立
藤沢清流高校
キャリア支援グループ
総括教諭
小島昭彦先生



授業がこんなに違う！

保護者の時代

授業の形態は一斉講義。先生の板書をひたすらノートに写していた。紙の辞書や参考書にマーカーを引きながら、知識を増やす勉強が中心。

今は？

授業形式が多様化 タブレットで授業も

タブレットや電子機器を使った授業、グループ学習などの「学び合い」の授業が増加。覚えるだけでなく、**社会で使える力を養う**授業になってきている。

保護者の時代とは、高校生活も進路選択も

進路行事がこんなに違う！

保護者の時代

進路関連の行事は三者面談や二者面談に加えて、卒業生による進学体験講座を行う程度。

今は？

面談や行事以外でも 進路を見据えた授業も多彩

三者面談はもちろん、「総合的な学習の時間」で、外部の社会人を迎えた講演や**インターンシップなどのキャリア教育を実施する**学校も多い。教科の授業でも、コミュニケーション能力の育成など、キャリア教育を意識した授業が増えている。

進路選択がこんなに違う！

保護者の時代

実際の大学を見る機会は学園祭くらい。冊子の進学情報誌や学校案内で大学を調べ、入試で初めて志望校に行く生徒が多数派。大学選びの主な手がかりは学部名と偏差値。

今は？

オープンキャンパスに行き、偏差値以外も重視

オープンキャンパスで**講義を公開している大学がほとんど**。高校生たちは大学で「何を学びたいか」を考え、**実際に大学を見て選ぶ**時代。

えており、今後、変化はますます加速していくと予想されています。それにともない、社会に出てから必要とされる資質や能力にも変化が起きています。決められたことをきちんとこなす能力に加え、自分で課題を見つけ出し、主体的に学び、仲間と共に解決していく能力が求められています。

こうした変化に、社会に出る窓口である大学が対応し始めたことで、大学が求める高校生の能力も変わってきました。2020年度からセンター試験に替わる入試制度が導入されることはご存知の方も多いと思いますが、皆さんのお子さんも無関係ではないのです。国立の二次試験や私立大学では、すでに以前のような知識偏重の試験では測れない能力を試す入学者選抜も始まっています。

子どもたちが自らの意思で進路選択し、社会に羽ばたける人として育つよう、保護者には今までの「保護」の立場から、「自立支援者」にギアチェンジしていただく必要があります。そのためにも、子どもたちが通る3年間の道のりと、保護者に求められるかかわり方を知っておきましょう。

次ページから3年間のスケジュール例を見ていきましょう

1年生

環境の急変にまずは慣れる時期。子どもの変化に戸惑わず見守る姿勢で

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

主な学校行事

- 4月：入学式／新入生オリエンテーション／授業スタート
- 5月：入部活動スタート／中間テスト／個人面談
- 6月：体育祭
- 7月：期末テスト／模試・外部テスト
- 夏休み
- 8月：夏期講習
- 9月：文化祭
- 10月：中間テスト

学校によって春または秋に行うケースがある。同級生や上級生との協働作業の意義を知り、仲間との結束を強めることも目的。

今は夏休みに夏期講習を行う学校が増えている。部活もあるので夏休みも普段のように通学する生徒も。

保護者の目配りポイント

◆通学時間の変化
交通機関を利用しての通学により、通学時間が長くなることで、睡眠不足になる生徒も。朝食をしっかりとらせるなど、環境の変化による緊張感や疲労回復をサポートしてあげましょう。

◆最初の試験
テストのレベル、結果にショックを受ける子どもも少なからずいます。保護者が子ども以上に動揺せず、本人が「次はがんばろう」と前向きな気持ちになれるような見守り、声かけを。

◆アルバイトをしたいと言ってきたら
アルバイト経験は悪いことではありませんが、高校生の本分は学業。なぜアルバイトをしたいのか、お金がなぜ必要なのか、校則で許可されているのかを確認しましょう。保護者の対応のしかたが大切です。

◆面談前後に家庭で会話を
学年によって面談の内容は異なります。子どもが進路についてどのように考えているか、家庭で会話するきっかけになる場です。子どもの考えが予想と違っていても頭ごなしに否定はしないように。

進路選択にかかわる行事

- 4月：進路ガイダンス／保護者対象進路説明会
- 8月：オープンキャンパス参加／三者面談／インターンシップ
- 9月：社会人講演会
- 10月：仕事研究／進路ガイダンス

1年生対象の進路ガイダンスでは、具体的な志望校の絞り込みのためというより、3年間で進路を決めていく道筋や、大学の学部ごとの学びの内容や職業との関連など、総論的なガイダンスであることが多い。

生徒対象の進路ガイダンスと同様の情報提供や、今の時代の進路選択の情報が得られるのでぜひ参加したい。

公立高校では8割以上がインターンシップを導入。学年や導入方法は学校によってさまざま。

最近の入試動向、今後の進路指導スケジュール、卒業生の進路状況などを説明。まだ遠い話として聞く生徒も多いが、進路を見通して高校生活を送る大切さが伝えられる。

マークの説明
- 保護者の役割は見守りです
- 保護者は声をかけてあげましょう
- 保護者に行動が求められるケースです

自立を促しつつ、生活面の変化は家庭でも協力を

高校生活のスタートは、子どもにとって環境が大きく変わる時期です。通学時間が長くなり、今までよりも朝早く出かけて、帰宅時間が遅くなり、生活のリズムをつかむまでにも少し時間がかかるかもしれません。

また、新しい友達との人間関係づくりや、科目数が多く進度が速い高校の勉強に慣れず、戸惑いを感じる子どもも少なくありません。一方で、適応が早く見える子どもが、新生活で浮かれている場合もあります。いずれにしても、体力的にも精神的にも本人の無意識のうちに負担がかかっていることが考えられます。

生活を律していくのも自立への一歩ですが、子どもの生活時間の変化は家族の生活にもかかわることなので、食事や入浴時間など、保護者も協力してサポートしてあげたいものです。ただし、保護者はあくまで「自立支援」の立場で。

「小中学生の頃までは保護者が子どもの世話を焼くことが多々あったと思います。これからは、子どもといい意味での距離感を保つと、成長を促すことにもつながります」（小島先生）

3月　2月　1月　12月　11月

春休み　冬休み

- 学年末テスト
- 模試・外部テスト
- 期末テスト
- 模試・外部テスト
- 個人面談

進学校では1年生から模擬試験（模試）を行う学校が多い。模試は学校で一括で受けるパターンと、個人で申し込んで受けるパターンがある。

◆不得意分野を知るきっかけになる
志望校の合格率判定が目的と思われがちですが、「できない問題を知る」ことで勉強方法に気付くきっかけになります。点数が低くても利用する価値はあります。費用はおおむね1回5000円前後。

◆子どもの志望を知っておく
得意科目だけでなく、本人の興味や仕事とのかかわりなども考えて選択させたいものです。私立大進学の場合、文系と理系では学費に大きな差があるので、資金対策のためにも子どもの志望を確認しておくことは大切です。

- 合格体験報告会
- 文理・科目選択

多くの学校では2年生から文系・理系に分かれたクラス編成や授業科目選択が始まります。

保護者対象の行事には積極的に参加したい

12～13ページでお伝えしたように、昔と今では学校の様子も進路選択の方法も異なっています。学校生活を送るのも進路を決めるのも子ども自身ですが、子どもたちにとっても初めてのこと。自分の進むべき道に迷ったときに、保護者に相談したいこともあると思います。そのときに、保護者が今の学校や進路選択がどうなっているのか知っておくことが大事です。保護者会や保護者対象の進路説明会は、子どもと進路に関する情報を少しでも共有するよい機会なので、積極的に参加して、情報に触れておきましょう。

高校の先生に聞いた 生徒の変化 あるある

戸惑いあるある　入学直後、生活の一新に期待と不安が入り交じる

●通学途中で電車の乗り間違え。毎年春の事件です。（大阪・府立）

●併願校でしかたなく入学した不安や不満ゆえに、攻撃的な発言をしたり、心を閉ざしたりしている生徒もいます。逆に第一志望で入って有頂天になっている生徒との温度差で生徒間のトラブルにつながることもあります。（愛知・私立）

●「疲れた」「やばい」「課題多い」という発言をよく聞きます。（京都・私立）

●中学校に比べて「自由だ」「自由度が高い」と言ったり、買ってもらったスマホをしょっちゅう触っている。（青森・県立）

急成長あるある　ある日教員の想像を超える成長を見せる生徒たち

●「本当は別の高校に行きたかった」と言っていた生徒で、大学入試でリベンジしようと、必死にがんばる子も割といる。2番手校に来たからこそ、伸びる子も多かったです。（和歌山・県立）

●友達ができないと悩んでいたのがウソのように、行事では率先してクラスをまとめたりすることがある。生徒会に入るなど、自分が今までやったことのないことに挑戦する姿は感動する。（沖縄・県立）

●入学直後から、宿題・提出書類などの忘れものが多かった生徒が、5月の連休明けから誰よりも早く提出物を持ってくるように。携帯電話を買ってもらい、スケジュール管理機能を使い始めたそう。急激な成長に驚いた。（山形・県立）

卒業生あるある　高校の経験を生かし卒業後も成長を続ける

●Facebookなどに英語で文章を書いている卒業生、積極的にいろいろなボランティア活動に参加している卒業生、海外に出てさまざまなことを吸収している卒業生などを見ると、高校時代にチャレンジさせた多様な体験の成果が出ていると思います。（東京・都立）

●卒業生が自分の研究分野や留学計画などを誇らしく説明してくれるときや、家族や教員への感謝の言葉が自然と会話に出るときに、成長したと感じます。（大阪・府立）

2年生

高校生活で最も充実感があるとき。さまざまな経験を進路選択に生かしていく

4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月

主な学校行事

- 4月 5月　中間テスト　個人面談
- 6月　体育祭
- 7月　期末テスト　模試・外部テスト
- 夏休み
- 8月　夏期講習　修学旅行の準備
- 9月　文化祭　3年生の部活動引退
- 10月　中間テスト　修学旅行

何かにじっくり取り組む絶好の機会。大学生の先輩訪問やボランティア活動など、学校外の活動で視野を広げることも可能。

運動部は夏の大会後に、文化部は秋の文化祭後に3年生が引退し、部活動は2年生が中心の体制になる。

海外を訪れたり、単なる観光ではなく、フィールドワークや現地の人々との交流を目的とした研修的な旅行を行う学校が増えている。事前準備や事後報告会を行うことも。

保護者の目配りポイント

◆勉強の中だるみ

2年生になると、高校に慣れ勉強以外に夢中になるものが増えてきます。体育祭などの行事もそのひとつ。つい口を出したくなっても、「勉強しろ」と言われるほどやる気がなくなるもの。声をかけるなら「体育祭の準備大変なの？」など、勉強以外でがんばっている姿勢も理解してあげたいものです。

◆生活の中だるみ

夏休みも部活や講習、修学旅行や文化祭の準備など多忙に活動。帰宅が遅くなったり、帰宅後に仮眠をとって深夜に起き出すなど、生活リズムが崩れがちです。夜型にならないよう仮眠の取りすぎに気をつけてあげましょう。

◆推薦やAO入試の希望を確認

大学受験には一般入試の他に、指定校推薦、公募推薦、AO入試があり、これらは3年生から準備するのでは遅いケースがほとんどです。子どもがどんな入試を考えているか、面談を機会に確認しておきましょう。

進路選択にかかわる行事

- 進路ガイダンス
- 大学教員の出張講義
- オープンキャンパス参加
- 三者面談
- インターンシップ
- 社会人講演会
- 進路ガイダンス
- 保護者対象進路説明会

2年生での進路ガイダンスでは、外部の専門家による講演など、進路先決定に向けて学びをどう深めていくか、学部や学科の選び方について指導されることが多い。

大学教員を招いて行われる模擬授業。大学の学問・研究の面白さや奥深さを体験する。進路ガイダンスとして行う学校も。

構内を見学したり講義を受けられたり、大学の空気を肌で感じられる良い機会。イベント化されている傾向もあるため、オープンキャンパス以外の普通の日に見学に行くと普段の様子がわかる。

高校OB・OG、地域で活躍する社会人などを招き、高校時代の進路選択、仕事に就くまでのプロセス、現在の仕事のやりがいなどを語ってもらう。

マークの説明

- 保護者の役割は見守りです
- 保護者は声をかけてあげましょう
- 保護者に行動が求められるケースです

勉強以外に熱中できることもこの時期ならではの経験

2年生になると高校生活にも慣れ、下級生が入ってきて、気持ちにも生活にも余裕が出てきます。高校に慣れるか心配していた保護者からすると、部活動や友達関係で充実している子どもたちが、勉強をおろそかにして中だるみしているように見えることもあるかもしれません。

しかし、3年生になれば自ずと受験や就職を意識し始めます。勉強以外のことに熱中できるのも、この時期だけです。また、行事や部活動、友達とのつきあいから学ぶ経験がたくさんあることは、保護者の方々の高校時代も同じだったのではないでしょうか。ましてや今は、机上の勉強で得た知識だけでなく、体験的なことから得たことが、社会に出てからも役に立つ時代です。羽目を外しすぎない限りは、保護者は見守る立場で。

「行事や部活などで子どもが忙しくなり、口出ししたくなることが増えますが、命令や叱咤でなく、質問形式のコミュニケーションがおすすめです。自分で考え行動する、自立を促すきっかけになります」（小島先生）

3月　2月　1月　12月　11月

春休み　冬休み

- 学年末テスト
- 模試・外部テスト
- 学習合宿
- 期末テスト
- 模試・外部テスト
- 個人面談

学習習慣の確立、集中力・持続力のトレーニング、受験に向けた意識づけなどを目的として合宿を行う学校も。

◆入試スケジュールは把握しておきたい
現在の大学入試は、私立でもセンター試験を利用していたり、同じ試験で複数学部を併願できる場合があるなど、非常に複雑化しています。また、各大学の合格発表日と入学金納付のスケジュールは保護者も確認しておきたいところです。

◆入試科目と学ぶ科目のすり合わせ
この時期はまだ志望校が明確でないことが多いですが、最終的に志望する大学の入試科目を学んでいなかったということがないよう、3年生での履修科目に迷っているようであれば声をかけてみるのも手です。

- 合格体験報告会
- 次年度の科目選択

大学受験を終えた先輩たちの、成功体験、失敗体験などを聞く場。生の声を聞くことで、受験のスイッチが入る生徒も多い。

今後、進路希望を絞り込んでいく際に役立つよう、1年生の時以上に具体的な情報が提供される。家庭での話し合いも必要になるため、保護者にも進路選択に向けて意識を高めてもらう狙いもある。

社会や保護者への興味もはぐくみ始める時期

今は、進路の時間だけでなく、「総合的な学習の時間」などを通じて、外部の社会人と触れあったり、自分が学びたい分野について、課題研究を行う学校が増えています。大人が驚くほどの発表を見せる子どももいます。

こうした社会につながる学びをするなかで、子どもたちは一番身近な社会人である、保護者に対して今までとは違った見方をし始めることもあります。これも大きな成長です。保護者の職業や働き方に興味を持ったら、ひとりの社会人としてどんな話を子どもたちにしてあげられるか、今から考えておくのもよいかもしれません。

高校の先生に聞いた こんな保護者 あるある

三者面談あるある　学校での子どもの様子が見えず不安になる保護者たち

●「学習と部活動の両立ができるか、もしできているならどのようにしているのか」「大学入試において、自分の子どもが推薦してもらえるのか」「志望大学に合格できるかどうか」と言う保護者。（滋賀県・私立）

●生徒が学び重視で選んだ大学に対して、「知らない」「遠い」という理由で全否定する保護者。（静岡・県立）

●自分の子どもの欠点を指摘するような発言をされる場合には、学校での良い面を全面的に伝えるようにしています。生徒の可能性を高めるようにしたくても、家庭で逆効果の指導をしているケースもあるように感じます。（東京・都立）

子ども自身より、自分の気持ちを優先させてしまう保護者たち

●三者面談で、すべてにわたって生徒の先回りをして話を進めていく保護者がいます。（神奈川県・私立）

●「本人のしたいようにさせたい」という言葉はよく聞く。保護者として指導したうえで自由にさせるというのと、無関心というのでは、まったく違う。後者の場合でギリギリになって「そんなにお金がかかるとは知らなかった」「そんな遠くに行くなんて聞いていない」というケースもあり心配です。（山形・県立）

●成績が悪いことなどをただ叱るだけで、子どもが将来についてどう思っているのか、何を考え、何を悩んでいるのかを聞いてくれていない。（沖縄・県立）

入試前後あるある　保護者も不安、でももっと不安なのは本人と知ってほしい

●保護者が進学を容認していたはずなのに、直前になって翻してくるケース。生徒が保護者とお金の話を避けて来ていたために、出願直前になってトラブルになることがあります。（千葉・県立）

●お互いにナーバスになって、保護者は腫れ物に触るように生徒に接し、家庭内もぎくしゃくする。（神奈川・県立）

●「○○君は、△△大学へ行くらしい」「あなたは、■■大学へ行った方がいいと思う」「近所の大学に行っているお兄ちゃんがこうした方がいいって言ってた」など、周りとの比較話、真偽が確認できない噂話をすることは、本人を焦らせるばかりです。（東京・都立）

3年生

学校行事や部活動の達成感を原動力に高校生活の集大成に向けて全力投球

10月 | 9月 | 8月 | 7月 | 6月 | 5月 | 4月

主な学校行事

- 4月 模試・外部テスト
- 5月 中間テスト
- 5月 個人面談
- 5月 模試・外部テスト
- 6月 体育祭
- 6月 模試・外部テスト
- 7月 期末テスト
- 7月 模試・外部テスト
- 8月 夏期講習
- 9月 文化祭
- 9月 部活動引退
- 9月 模試・外部テスト
- 10月 中間テスト
- 10月 模試・外部テスト

夏休み

1～2年生に比べ、模試の回数が増える。結果や判定に一喜一憂しがちだが、それはあくまで一時のもので、学力は数カ月でも大きく変動する。

企画・運営・競技においても、後輩を引っ張り、体育祭の中心となる役割を担う。

高校生活最後の大きな学校行事。仲間と共に完全燃焼したという満足感が、受験勉強への集中につながる。

夏～秋に部活動を引退すると、学年全体が受験モードに。

保護者の目配りポイント

◆最後の体育祭

行事や部活に熱中しすぎていても、学校で友達と力を合わせる行事は発散の場。やりきった自信や達成感が受験勉強を乗り越える力にもなるので、見守ってあげましょう。

◆燃え尽き・生活リズムの変化に注意

部活動や文化祭は、達成感と自信が受験へのパワーにもつながりますが、終わった後に燃え尽きてしまう生徒もいるので見守りが必要。部活動の練習がなくなって生活リズムを崩さないよう、家庭でもフォローを。

◆入試や奨学金のスケジュールを把握

保護者向けの進路説明会では、入試や模試の年間スケジュールの説明が主体。学校の方針を理解し、進路情報を入手するためにもぜひ出席を。奨学金にはさまざまありますが、最も主要な日本学生支援機構の奨学金は、予約申し込みが4月に始まります。利用する場合、子どもの志望校の納入金や家族の年収などを把握しておく必要があり要注意です。志望校の学費や、学生生活にかかる費用については早めに子どもと話し、共通理解しておきましょう。

◆推薦やAO入試の希望を確認

3年生の三者面談で避けたいのは、親子の思惑の違いがこの場で初めて露呈すること。進路を決めるのは本人ですが、費用面など保護者のかかわりは必須。面談に臨む前に子どもの希望や保護者の事情を伝え合えると安心です。

進路選択にかかわる行事

- 4月 進路ガイダンス
- 4月 保護者対象進路説明会
- 4月 日本学生支援機構奨学金の予約採用申し込み開始
- 5月 進路希望調査（学部・学科選び）
- 6月 推薦入試ガイダンス
- 6月 面接・小論文指導
- 8月 三者面談
- 9月 指定校推薦の校内選考
- 9月 センター試験ガイダンス
- 10月 センター試験出願

63pへ

AO入試が始まる前、春ごろに意思確認を行うケースが多い。最終決定ではないが、適性や興味関心に基づいてしっかり考えたい。学部名称だけで判断せず、何を学べるかをWebサイトなどで調べ、オープンキャンパスで感じたことなどから判断したい。

志望校や入試方法別に細分化したガイダンスを実施する高校が多い。あるいは個別指導・相談が中心となる。

子どもの進路について三者で確認する。事前に家庭である程度話し合い、質問や相談事項をあげておくと効果的。

センター試験の出願は、現役生（高校生）の場合は学校が取りまとめて行います。この時に受験する科目を決める必要があるため、志望する大学がどの科目を指定しているか調べておかねばなりません。

入試スケジュール

- 国公立大学：入試科目等発表
- 私立大学：AO入試／募集要項が出始める
- 専門学校：AO入試／出願開始／エントリー開始／募集要項等発表

マークの説明

- 保護者の役割は見守りです
- 保護者は声をかけてあげましょう
- 保護者に行動が求められるケースです

変化の激しい時代に生きる子どもたちを見守りながら3年間の成長を楽しもう

学校行事の満足感が受験勉強のエネルギーに

高校生活の集大成である3年生。行事や部活動の中心として活躍するとともに、毎月のように模擬試験があり、否が応でも受験体勢のムードに。「3年生なのに体育祭に夢中で」と心配になる保護者もいますが、行事や部活動は勉強のストレス発散でもあり、準備や練習をやりきった達成感が、受験勉強を乗り越える原動力にもなります。秋の文化祭や部活動の引退を機に、受験モードのスイッチが入ります。ここから急激に伸びる子どもも少なくありません。

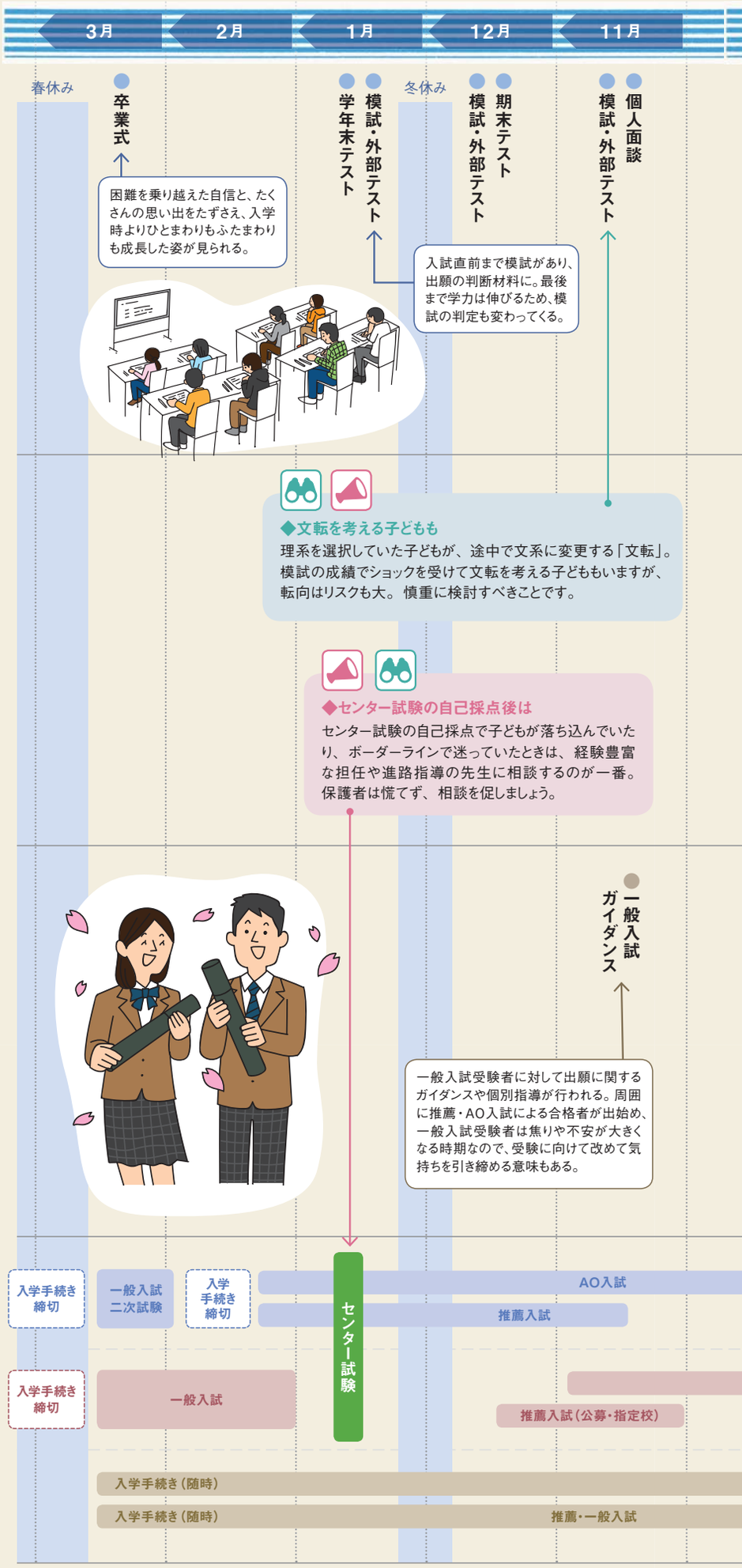
迷いながら成長していく子どもたちの自立を見守ろう

社会での職業や業種が複雑化しているように、今の大学などの学部・学科も多様化しています。その中から、志望校を絞り込むまでには、子どもたちに迷いはつきものです。

「子どもが進路で迷うと、保護者も不安になるものです。保護者向けの進路ガイダンスに参加して情報を得ておくと、子どもと話す時にも『親はわかったうえでかかわってくれている』と信頼につながります」（小島先生）

進路を決めるのは本人ですが、進学費用を出すのは保護者の役割です。子どもが希望する進路にかかる費用を準備するためにも、志望先は知っておきたいもの。子どもが家庭の事情を勝手に思い込んで、志望をあきらめるケースもあります。保護者はどれくらいなら準備してあげられるか、進路先の情報を収集しながら、家庭で話し合っておきましょう。

さまざまな学校活動や受験を乗り越え、自身で選んだ進路を歩み始めるとき。頼もしく成長した子どもたちの姿を見る日を楽しみに、見守っていきましょう。



このスケジュールはモデルケースで、行事・指導の最適な時期は学校によって異なります。